

「埼玉県の川にまつわる郷土史」

調査報告書概要版

平成 24 年 3 月

彩 の 川 研 究 会

はじめに

この報告書概要版は、平成 23 年度に彩の川研究会が実施した『埼玉県の川にまつわる郷土史』調査結果の概要をとりまとめたものである。なお、本調査は平成 22 年度から引き続き調査研究を行ったもので、本報告書概要版はこの 2 年間の成果をとりまとめた。

埼玉県の平野部は、太古の昔からゆったりと流れる利根川、荒ぶる大河荒川が乱流し、肥沃な土壌を堆積させた。近世になり、為政者は利根川を東に(東遷)、荒川を西に(西遷)瀬替えさせ、治水や舟運の利用のために流路を固定した。また、県中央部の肥沃な大地に用水、排水路を張り巡らせ、優良な耕地を生み出した。これらの大事業は多くの有名、無名の先人たちが、時には私財を投じ、時には過酷な労働に耐え忍んで成し遂げたものである。これら先人の偉業は、各地域の郷土史に名を連ね、路傍の石碑に刻まれている。

これら地域の郷土史等に紹介されている多くの有名、無名の先人たちの偉業や、川にまつわる物語等を取りまとめて、「川にまつわる郷土史集」を編集し、この成果を国や県の河川関係機関に提供するとともに、県内図書館等に寄贈し、県民の「川への親しみ」と「河川事業への理解」を醸成することを目的として、本調査を実施した。

当研究会は、埼玉県在住の公益社団法人日本河川協会会員で構成されており、川にかかわる知識と経験豊富な会員の能力を活用して調査委員会(代表篠塚正行)を立ち上げ、県土整備事務所所管区域をベースに、5つの班を編成して調査にあたった。

平成 22 年度は、文献・資料、聞き取りおよび現地調査を実施して、治水の人物史、利水の人物史、地域の歴史、川の名の由来、文学詩歌等、洪水の体験談、その他の記録を確認するとともに、これらの分類ごとに調査票にとりまとめた。平成 23 年度は、調査票について補足調査を行うとともに、調査票の中から主要なものを選定し、詳細な調査を行って、物語風の郷土史集としてとりまとめた。概要版にはこれらのいくつかを抜粋して掲載した。

この郷土史集に手をふれることにより、先人たちが地域で生存するために治水・利水の活動を通して、いかにコミュニティーを形成・維持してきたかその過程を知り、川の恩恵を享受している現在の県民・流域住民の方々に「川への親しみ」と「河川事業への理解」を少しでも深めていただければ幸いである。

「埼玉県の川にまつわる郷土史」調査報告書概要版

目 次

第1章 調査概要	1
第2章 川にまつわる郷土史の抜粋	13
2-1. 白井武左衛門といろは樋・佃堤	13
2-2. 大川平三郎と原次郎の越辺川・小畔川の改修	19
2-3. 都幾川築堤と土手普請図	26
2-4. 緑のオアシス見沼田圃	30
2-5. 明治43年洪水(旧出来島村・現熊谷市大字出来島)の被災	36
2-6. 河川改修と行政境	41

●編集委員会

この報告書概要版の編集は、彩の川研究会・「川にまつわる郷土史」調査委員会のメンバーが編集委員会を開催してとりまとめた。

代 表 篠塚正行

相談役 小林寿朗

委 員 田中長光、桑島弘治、木内勝司、横倉輝夫、新井 勲

浜田久典、浅見 優

「埼玉県の川にまつわる郷土史」
調査報告書概要版

平成 24 年 3 月発行

公益社団法人日本河川協会 彩の川研究会

問合せ・事務局

TEL 090-2557-7766

〒338-0001 埼玉県さいたま市中央区

上落合 2-11-7-1310